

湯沢市の全中学校で使用 **給食に川連漆器の汁わん**

生徒「料理が美しく見える」



給食に使用する川連漆器の汁わん

湯沢市の中学校で25日、給食の汁物用食器に市の伝統的工芸品・川連漆器を使用する取り組みが始まった。地域産業への理解を深め、郷土への愛着を持ってもらうことが目的。

漆器はトチノキ製で、直径約12㍓、高さ約6㍓。全体が朱色で塗られている。県漆器工業協同組合が制作した。本格的な導入に先駆けて、昨年2月から稲川小で試作品の汁わんを導入

入して使い心地などを試してもらっていた。

汁わんは、木をゆがみにくくするため原木を削り出して形作ったわんの燻製期間を通常よりも長くしているほか、強度が増すよう漆を塗る前に酒かすを塗っており、制作には1年以上かかったという。7月下旬に市内全6中学校の生徒(8月1日時点782人)や教職員が使う分と、予備を合わせた1100個が市に納品された。

取り組みが始まった25日、佐藤一夫市長は稲川中学校(船山育士校長)を訪れた。「川連漆器は県を代表する市の伝統産業。学校給食での使用を通じて地元に誇りを持ってもらいたい」とあいさつ。3年生21人と一緒に給食を食べ、川連漆器の汁わんに入った豚汁を味わった。

佐藤仁さんは「家では漆器を使うことがなく新鮮だった」、高橋百花さんは「盛り付けした料理がいつもより美しく見える」と話した。

市は来年度、川連漆器の汁わんを市内全6小学校と

稲川支援学校にも導入する予定。(館岡朋美) (令和7年8月27日(水)秋田魁新聞より一部抜粋)



川連漆器の汁わんに入った豚汁を味わう佐藤市長と生徒たち